ユリノキの町から　風の便り 73　2024（令和6）/11/1.
八千代・ゆりのき台　辻　秀幸

残念セミ（昆虫綱 カメムシ目 セミ科）　参照：No.45、47.

昨年2023（令和5）年の夏はセミの抜け殻が木の幹や葉に鈴なりでした。今年は成長途中で挫折した姿が目につきました。この章のタイトルの「残念」とは私の選んだ言葉ですが、動物に人間の感情を反映させるのは要注意であるとする主張があります。この夏、海水浴場でイルカに噛みつかれたというニュースがありました。イルカについては、水族館のショーやイルカウォッチングなどで頭をなでなでする様子が紹介されることがあります。知能が高く、人間と遊びたがっているとも説明されます。なので子供も大人も近づいてきたイルカに手を伸ばす。イルカは甘噛みしたのではないか、との説明もありました。クマのぬいぐるみで遊んだり、ハンカチを拾って届けてくれるクマさんのことを歌ったりする子供は、動物園に行くとクマに手を差し伸べる。

2024/7/25. 八千代・ゆりのき台5.　右は、殻を一部はずした様子

左のセミさんは、長い地中生活が続いた後、体の奥底からの声に導かれて地上に出、高みへと登りました。殻を脱ぐ時が迫ります。おや、おかしいぞと気づきます。いやな予感。そんな筈はない。日の光の中を隣りの木から木へと羽ばたく予定ではなかったのか。お日様が暑い光を放ちました。このセミさんの世界はそこで無になりました。

下のセミさんは殻を脱ぐことに成功しました。さあ飛ぼう。でも羽がすっきりとは伸びず窮屈です。そして気づきました。隣にいる仲間と自分と姿が違います。でも飛びました。そして飛び方も仲間のように威勢よくかっこよくないことを知りました。仲間と同じになりたいと思いました。もう一回飛んでみました。転がるだけでした。そこは薬局と書いたドアの前でした。薬局なら仲間と同じ体になる薬をもらえるに違いないと直感しました。でも、このセミさんの大きさではドアは開きません。中のお姉さんからはドアの前でセミさんが入りたがっている姿は見えません。このセミさんの世界はドアの前で終わりました。

2024/8/2. 八千代・ゆりのき台5.
オリーブ薬局前

このセミさんたちは命を全うしたかったでしょう、残念無念であったでしょう。

人間である私の体には体内外に様々な細菌、黴菌が棲みついています。幸いお医者様のお蔭で差し障りなく毎日を過ごしています。セミにも生き物が住みつきます。その中にはよくないことをするものもいます。

マッソスボラ（子嚢菌綱ハエカビ目ハエカビ科）という真菌病原体が繁殖したセミは、生殖器を含む腹部が脱落しても飛び回り、交尾（と同じ行動）をしようとします。体半分が無くなっても飛ぶ様子からゾンビせみとも呼ばれます。マッソスボラはこうして他のセミに感染を広げます。乗っ取られたセミは幻覚作用のある成分によって自分がどんな状態なのかわけがわからない状態になっています。むごいことです。こういうことがあっていいのでしょうか。マッソスボラにとってはしめしめということでしょう。

2023/7/21。八千代・ゆりのき通りの　ユリノキ

2019/8/21. 船橋・浜町1

マッソスボラではなさそうですが、体にカビのようなものが付いたセミを見つけました。左写真のミンミンゼミさんに付いている白いものは、ボーベリア・バシアーナ（昆虫病原性糸状菌）が寄生したという写真に似ています。よく知られていて生薬に利用されることもあるのが冬虫夏草（子嚢菌門チャワンタケ亜門フンタマカビ綱ボタンタケ目 オフィオコルジケプス科）。これは菌類が寄生してキノコとなったもの。ガの仲間のセミヤドリガ（昆虫綱チョウ目マダラガ上科セミヤドリガ科）の幼虫は主にヒグラシに寄生するそうです。

右下写真のセミさんは満足した生涯だったことでしょう。種の維持存続の務めを果たし、天寿を全うしたのでしょう。役目は没後も続きます。アリの生存と繁栄のために体を提供するのです。死んでもそれは無駄ではないのです。尊いことです。

そうか。私の体にカビが寄生しても癌細胞が増えても、ほかの生き物の役に立っていると考えればよいわけだ。

砂粒・土粒で覆うのは、見つけた食料が大きくてすぐに運びきれない時に、横取りされてなるものか、と行うようです。仲間の命がかかる必死で懸命な作業なのです。

2024/8/22. 八千代・ゆりのき台6.

武内清様

風の便り 73 号をお送りします。セミです。

宮野木町方面のセミはいかがでしたか。ゆりのき台では昨年と段違いで、チラホラ程度の姿と声でした。セミの後に目立ったのがキマダラカメムシという鼻筋の通ったカメムシです。買い物の行き帰りにユリノキに取り付いているのを見ます。背中を押してあげますとくすぐったそうにして喜びます。

八千代市に来て初めての選挙に行ってきました。初めて選挙権を行使したのは小岩でした。当時はやたらと選挙カーが名前を大音響で連呼して走り回っていました。うるさい反面選挙ムードいっぱいてした。ポスターは制限なしだったようです。投票日、投票所の小学校の校門はポスターで大きな塀が増設された状態でした。投票後に花の種をもらったと記憶しています。今は静かで、ポスターもほとんど見かけず、ケータイで検索することもしない私は選挙がある事を忘れます。

私の選挙区では小林鷹之、古巣の船橋では野田佳彦が当選しました。

各党の主張で、減税、消費税減、義務教育無償、賃金増、現金給付などなどの項目が目につきました。ありがたいことです。私の命綱年金の支給額はなんだかんだという理由で減り、税金などの徴収額はあれこれという理由で増えて、考えると寿命前に生活資金枯渇で餓死かいな、と心配で夜寝られず昼間寝ている終末期高齢者が安眠できるようにしてくれることを期待します。

ではまた

令和 6 年 10 月 30 日　辻秀幸

2024/10/27. 八千代市立萱田小学校

写真は、投票所の小学校のフェンスです。

写真の右手の校門（南面）には投票所の案内は全くありません。入っても、投票会場である体育館への案内もありません。この小学校出身者が多いということもあるのでしょうが、最近この街へ転入してきた者には不親切ではありませんか、と考えつつ人の後ろにくっついて無事権利と義務を遂行。突然、思い出しました。学校で宿直（昔は宿直室という畳の小部屋が用意されていました）の夜、台風の大雨で学校の裏手の地区が冠水し、体育館に何家族かが避難してきたことがありました。別の年には学校自体が浸水して、体育館の床下に向けてドでかい扇風機が風を送り込んだこともありました。日大の先生の、日本の自然災害と対策と船橋の状況についての大学の公開講座に参加したことも思い出しました。

帰りは北側の門を出ましたが、こちらには立て看板がありました。

アキノキリンソウの小さい花を拡大撮影してみようかな、と思っています。秋です。あれこれ思う秋です。